

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報(U) 平4-24215

⑬ Int. Cl. *

識別記号

庁内整理番号

⑭ 公開 平成4年(1992)2月27日

F 21 Q 1/00
B 80 Q 1/34
F 21 V 17/00

K 8715-3K
B 8715-3K
V 2113-3K

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全 頁)

⑮ 考案の名称 車両用灯具

⑯ 実 願 平2-62176

⑰ 出 願 平2(1990)6月14日

優先権主張 ⑱ 平2(1990)4月27日 ⑲ 日本(JP) ⑳ 実願 平2-45370

㉑ 考 案 者 河 上 大 地 神奈川県伊勢原市上粕屋1166-7 市光工業株式会社大山
寮内

㉒ 出 願 人 市 光 工 業 株 式 会 社 東京都品川区東五反田5丁目10番18号

㉓ 代 理 人 弁 理 士 青 木 輝 夫

明 細 書

1. 考案の名称

車両用灯具

2. 実用新案登録請求の範囲

ハウジング内に、光源としてのバルブと、このバルブの周囲に被せるように配設されるキャップとを固着してなる車両用灯具において、キャップの端部に脚を設け、この脚を着脱自在に把持するクリップをハウジングの基部に設けて、キャップの脚をハウジングのクリップに挿入することによりキャップがハウジングに固着されるようにすると共に、キャップがハウジングに固着されたときにキャップの外周縁に当接し、その上面の向きをバルブから発光される光の放射方向と同じ向きとした漏光防止壁をハウジングの内壁に形成したことを特徴とする車両用灯具。

3. 考案の詳細な説明

〈産業上の利用分野〉

本考案は、自動車の転換方向をランプの点滅により知らせるフロントターンシグナルランプのよ

うな車両用灯具に関する。

〈 従来 の 技 術 〉

一般に、自動車のフロントターンシグナルランプにおいては、アンバー色に着色されたキャップを、バルブの周囲に被せるようにハウジングにねじ止めで固着し、バルブから発光される光をキャップによってアンバー色に変色させて、外方に射出させているのが通常である。

以下、従来技術における自動車のフロントターンシグナルランプについて、第4図を参照して説明する。

第4図は、従来の自動車のフロントターンシグナルランプ内部の概略構造を示す説明図である。

第4図において、1はフロントターンシグナルランプのハウジングであり、リフレクタとしての機能を有している。2は、フロントターンシグナルランプの光源であるバルブであり、ハウジング1の基部1aに設けたソケット1bに固着されている。

3は、バルブ2から発光される白色光をアン

バー色に変色させるキャップであり、アンバー色に着色された半透明のプラスチック等により形成されていると共に、バルブ2の周囲に被せるようにハウジング1にねじ止め（不図示）によって固着されており、その端部3-aはハウジング1の内壁1-cに接している。

上記構成による従来のフロントターンシグナルランプにおいては、バルブ2から発光される白色光をキャップ3の透過の際にアンバー色に変色させ、変色後の光をフロントターンシグナルランプの外方に出射させるようにしている。

〈考案が解決しようとする課題〉

しかしながら、上記従来のフロントターンシグナルランプでは、キャップ3の端部3-aと、この端部3-aが接するハウジング1の内壁1-cとの間に隙間Sが生じ、バルブ2からの発光がこの隙間Sからキャップ3の外方に漏れることがあり、この場合、キャップ3により変色されたアンバー色の光に、隙間Sから漏れたバルブ2からの白色光が混じって、キャップ3による変色効果が薄れて

しまうという不具合があった。

そこで、この不具合を解消するために、キャップ3の端部3aが接するハウジング1の内壁1cに、キャップ3の端部3aの外周縁に当接する漏光防止用壁(不図示)を立設すると、バルブ2からの光がこの漏光防止壁を照らした際にハウジング1の内壁1c上に影ができて、視覚上見栄えが悪くなるという新たな不具合が生じるという問題点があった。

一方、キャップ3のハウジング1への取り付けにおいては、キャップ3をねじ止めによってハウジング1に固着しているので、バルブ2の交換の際にキャップ3をハウジング1に固着しているねじを外す必要があり、取り外しが面倒であるという不具合があった。

本考案は上記問題点を解決するためになされたものであり、その目的とするところは、バルブから発光される光がハウジングとキャップとの間から漏れないようにして、高い変色効果を維持することができると共に、ハウジングの内壁上に影が

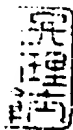
できないようにして、見栄えを損ねないようにすることができ、さらに、ハウジングに対するキャップの着脱を容易にすることができる車両用灯具を提供することにある。

〈課題を解決するための手段〉

本考案は上記目的を達成するために、ハウジング内に、光源としてのバルブと、このバルブの周囲に被せるように配設されるキャップとを固着してなる車両用灯具において、キャップの端部に脚を設け、この脚を着脱自在に把持するクリップをハウジングの基部に設けて、キャップの脚をハウジングのクリップに挿入することによりキャップがハウジングに固着されるようにすると共に、キャップがハウジングに固着されたときにキャップの外周縁に当接し、その上面の向きをバルブから発光される光の放射方向と同じ向きとした漏光防止壁をハウジングの内壁に形成するようにした。

〈作用〉

本考案の車両用灯具によれば、キャップをハウ



ジングに固着した際にキャップの外周縁が漏光防止壁に当接し、この漏光防止壁がハウジングとキャップとの間の隙間を塞いで、バルブからの光がキャップの外方に漏れることを防止する。

また、漏光防止壁はその上面の向きを、バルブから発光される光の放射方向と同じ向きとしてあり、バルブからの光が漏光防止壁を照らした際に、ハウジングの内壁に漏光防止壁の影が映らないようになる。

さらに、ハウジングのクリップがキャップの脚を着脱自在に把持し、ハウジングに対するキャップの固着を着脱自在なものとする。

〈実施例〉

以下、本考案の実施例を図面に基づいて説明する。

第1図乃至第3図は、本考案の一実施例による車両用灯具を示すものであり、第1図は車両用灯具の正面図、第2図は第1図A-A線に沿う断面、第3図は第1図B-B線に沿う断面であって、これら第2図及び第3図は、各々ハウジング



に対するキャップの取付構造を示す説明図である。

第1図乃至第3図において、10は、リフレクタとしての機能を有するフロントターンシグナルランプのような車両用灯具のハウジングであり、その基部10aにソケット11と複数のクリップ12とが設けてあると共に、その内壁10bに漏光防止溝13が形成してある。

20は、ハウジング10のソケット11に固着された、車両用灯具の光源であるバルブであり、このバルブ20から発光される光の放射方向に、上記漏光防止壁13の上面13aの向きをあわせている。

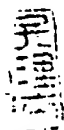
30は、バルブ20の周囲に被せるようにハウジング10に固着されて、バルブ20から発光される白色光を変色させるキャップであり、アンバー色に着色された半透明のプラスチック等により形成されている。

このキャップ30の端部31には、上記ハウジング10のクリップ12に着脱自在に嵌入、挟持

される複数の脚 32 が設けてあり、この脚 32 がハウジング 10 のクリップ 12 に嵌入されることにより、キャップ 30 がハウジング 10 に固着され、且つ、キャップ 30 の外周縁がハウジング 10 の漏光防止壁 13 に当接される。

上記構成による本実施例においては、キャップ 30 の脚 32 を上記クリップ 12 に嵌入して、キャップ 30 をバルブ 20 に被せるようにハウジング 10 に固着し、バルブ 20 から発光される白色光をキャップ 30 の透過の際にアンバー色に変色させて、変色後の光を車両用灯具の外方に射出させるようにしている。

上述の本実施例では、キャップ 30 をハウジング 10 に固着すると、キャップ 30 の外周縁が漏光防止壁 13 に当接するので、キャップ 30 の端部 31 とハウジング 10 の内壁との間の隙間の発生が防止され、よって、バルブ 20 からの光がキャップ 30 の外方に漏れてキャップ 30 による変色効果が薄れることがないようにすることができる。



また、本実施例では、漏光防止壁 13 の上面 13 a の向きを、バルブ 20 からの光の放射方向と同一方向としてあるので、バルブ 20 からの光が漏光防止壁 13 を照らした際に、ハウジング 10 の内壁 10 b に漏光防止壁 13 の影がでないようにすることができる。

さらに、本実施例では、ハウジング 10 にキャップ 30 を固着させる際に、キャップ 30 の脚 32 をハウジング 10 の基部 10 a に設けたクリップ 12 に、着脱自在に嵌入、挟持させるようにしたので、キャップ 30 のハウジング 10 に対する着脱を容易なものとすることができる。

〈 考案の効果 〉

上述の如く本考案によれば、ハウジング内に、光源としてのバルブと、このバルブの周囲に被せるように配設されるキャップとを固着してなる車両用灯具において、キャップの端部に脚を設け、この脚が着脱自在に嵌入されるクリップをハウジングの基部に設けると共に、キャップがハウジングに固着されたときにキャップ外周縁に当接し、

その上面の向きをバルブから発光される光の放射方向と同じ向きとした漏光防止壁を、ハウジングの内壁に形成するようにしたので、バルブから発光される光がハウジングとキャップとの間から漏れないようにして、高い変色効果を維持することができると共に、ハウジングの内壁上に影ができないようにして、見栄えを損ねないようにすることができ、さらに、ハウジングに対するキャップの着脱を容易にすることができる。

4. 図面の簡単な説明

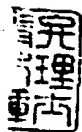
第1図は、本考案の一実施例による車両用灯具の正面図、第2図は第1図A-A線に沿う断面であって、ハウジングに対するキャップの取付構造を示す説明図、第3図は第1図B-B線に沿う断面であって、ハウジングに対するキャップの取付構造を示す説明図、第4図は、従来の車両用灯具内部の概略構造を示す説明図である。

10…ハウジング、 10a…基部、
10b…内壁、 12…クリップ、
13…漏光防止壁、 20…バルブ、

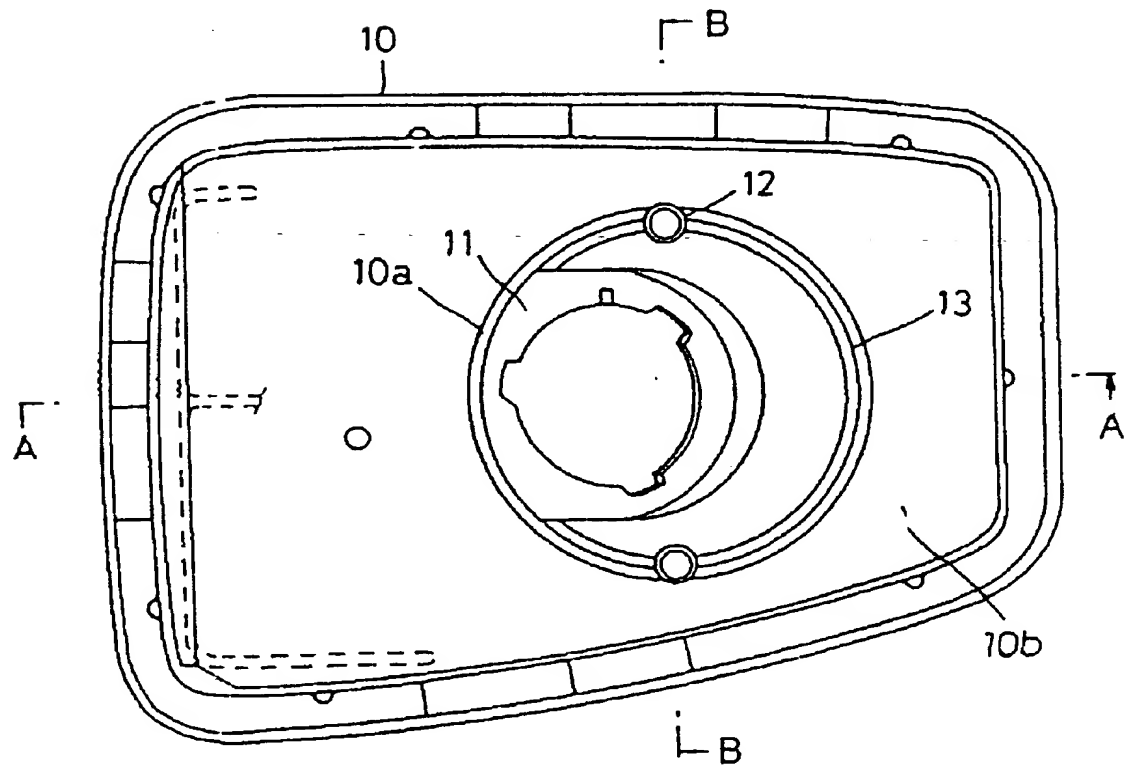
30…キャップ、 31…端部、
32…脚。

実用新案登録出願人
代理人 弁理士

市光工業株式会社
青木 輝 大



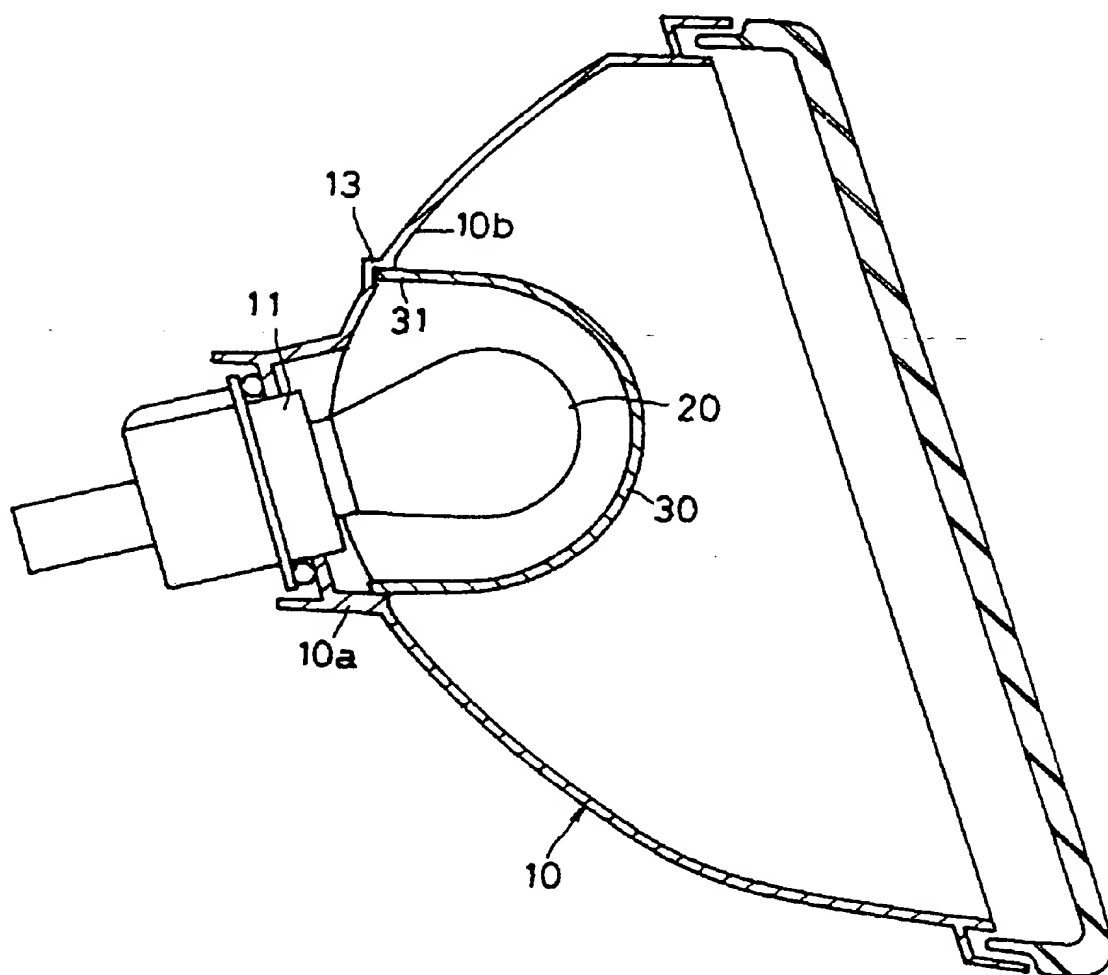
第 1 図



10 : ハウジング
10b : 内壁
13 : 漏光防止壁
30 : キャップ
32 : 脚

10a : 基部
12 : クリップ
20 : バルブ
31 : 端部

第 2 図

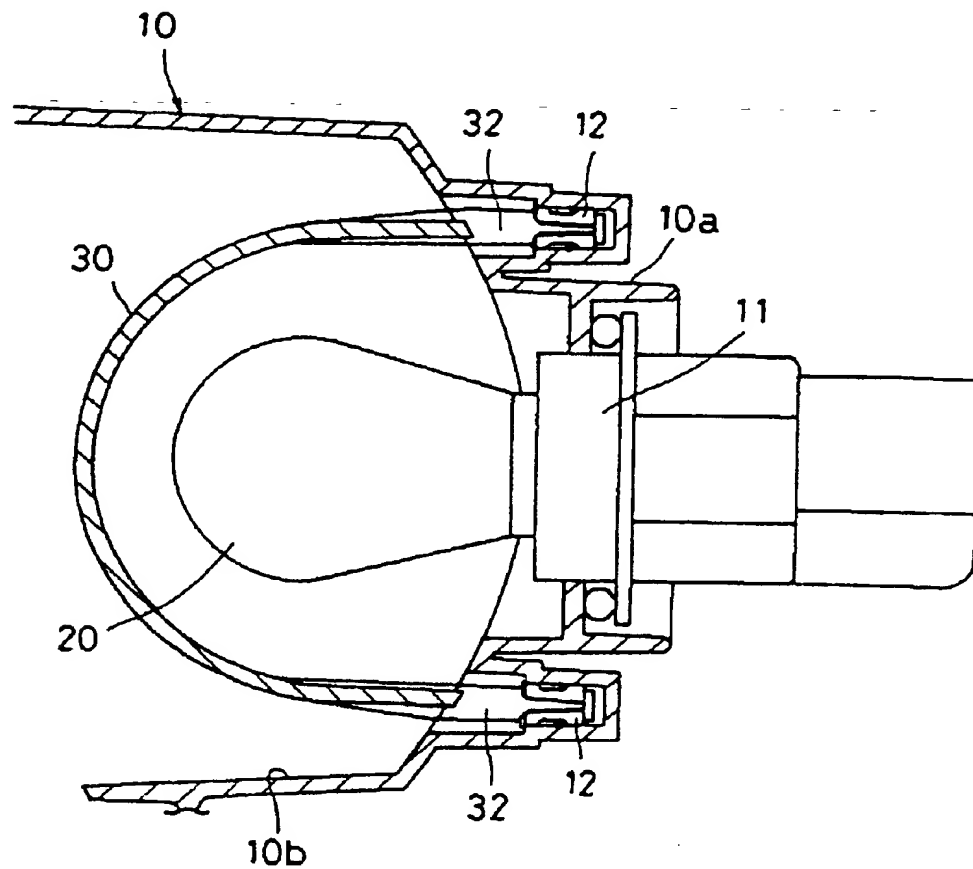


260

中 國 人 民 大 學 出 版 社

代理人 弁理士 青木 輝夫

第 3 図

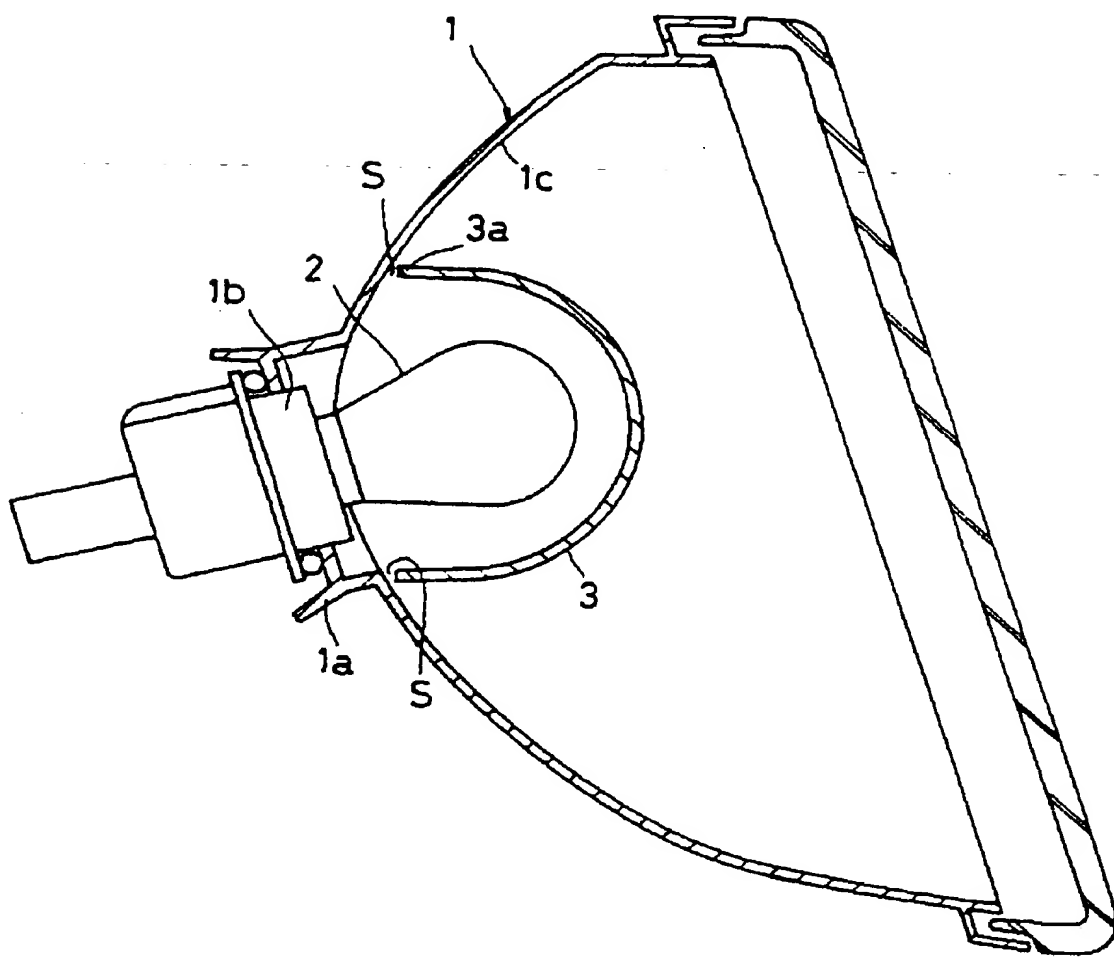


261

代理人 弁理士 青木 輝 夫

代理人 弁理士 青木 輝 夫

第 4 図



262

代理人 弁理士 青木 輝夫